

平成30年度事業計画（案）

I ツーリズムの創造・発展	
（1） ツーリズム企画推進事業	
<p>① 戦略的なツーリズム企画の推進 (担当：経営) (担当：地域)</p>	<p>○事業企画委員会やツーリズム戦略会議等のもと、会員相互の連携により事業企画・推進を図るとともに、県や市町村等への事業企画等の提案を行う。</p> <p>○当社における中期経営計画(平成31年～33年)の策定を行う。</p>
<p>② 各種協議会 (担当：経営) (担当：誘致) (担当：MICEセンター)</p>	<p>ツーリズムおおいたが事務局として協議会の運営にあたり、総会等の開催及び各協議会における事業企画の提案、推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県ふるさとガイド連絡協議会 ・大分県教育旅行誘致協議会 ・大分県 MICE 誘致推進協議会
（2） 地域連携事業	
<p>① 六郷満山開山1300年誘客キャンペーン事業実行委員会との連携 (担当：地域)</p>	<p>○六郷満山開山1300年を迎え、観光客の受入や誘客促進に取り組む実行委員会等と連携を強化し、特別感の創出や周遊促進素材の充実等による相乗効果の最大化を図る。</p> <p>○誘客キャンペーンを契機に醸成された新たな観光素材や商品、受入態勢の継承を支援する。</p>
<p>② 観光圏等地域連携観光組織との連携 (担当：地域)</p>	<p>○豊の国千年ロマン観光圏事業との役割分担のもとで、連携強化を図り、相乗効果の拡大を図る。</p> <p>○地域連携型の観光組織等と連携して、広域観光の推進を図る。</p>
<p>③ 県内DMO候補法人・地域観光協会との連携 (担当：経営) (担当：地域)</p>	<p>○県内のDMO組織、地域観光協会との連携を強化し、相互の役割分担、連携による共同事業等に取り組み、効果の拡大を図る。</p>
<p>④ 国民文化祭等との連携 (担当：経営) (担当：地域) (担当：誘致)</p>	<p>○第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭や大分県立美術館、芸術文化関連機関等連携したツーリズムの推進及び来県者の県内周遊の促進を図る。</p>

II 地域マネジメントの推進

大分県観光のプラットフォームとして県域版DMOの機能を効果的に発現するため、商品企画や販売、マーケティング機能の充実を図るとともに、市町村、域内DMO組織や観光協会、関係団体等との連携を強化し、県内観光の発展をサポートする。

(1) DMO推進事業

<p>① 商品企画・販売機能の強化</p> <p>(担当：経営) (担当：地域) (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○着地型旅行商品及びおんせん県グッズ等を一元的に販売できるWEB販売システム「テッパン！おおいた」の本格的稼働に移行するとともに、キュレーションシステムを活用した県内観光情報と販売の連動を図る。○県内外観光関係者等と連携して、県内及び隣県観光地等を結ぶ周遊企画商品の企画・造成や地域の支援を通じて、観光素材の充実を図る。○商品販売動向を含むマーケティング情報を的確に捉え、より効果的な商品販売方法等を検討、見直しを実施する。
<p>② マーケティング機能の強化</p> <p>(担当：経営) (担当：地域) (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○マーケティング会議を開催し、市町村や地域観光協会、旅館組合や商工関係団体等との連携を推進し、より必要とされるマーケティング情報の共有や共同事業の実施に向けた合意形成を図る。○客観的な観光関連データの集約・分析、誘客に結びつく戦略立案に必要なマーケティングを実施するため、各種オープンデータの解析、WEB市場調査や訪日外国人観光客の動態調査、由布市TICや宿泊事業者等と連携したモニタリング調査等を実施する。○マーケティングアドバイザーと連携して、データに基づく分析情報やデータに基づく事業企画提案を行い、共同事業の必要性やマーケティング情報の有効な活用策等の意識醸成を図るとともに、定期的なPDCAサイクルを構築する。

(2) 地域磨き対策事業

<p>① 魅力ある地域・商品づくりの推進</p> <p>(担当：地域)</p>	<ul style="list-style-type: none">○ナショナルパーク(国立公園満喫プロジェクト)等の自然環境を活用した新たな商品づくり、個人旅行者や訪日外国人観光客の増加に対応できる観光素材の整備を促進し、魅力ある観光地域づくりに取り組む。○欧米人に馴染みのあるフットパスコースやまち歩きウォーキングコースを企画するなど、外国人目線での商品造成や情報発信の充実を図る。
<p>② おもてなし体制の強化</p> <p>(担当：経営) (担当：地域)</p>	<ul style="list-style-type: none">○外国人観光客向け通訳サービス(おんせん県おおいた多言語コールセンター)のさらなる充実を図るとともに、九州各県とのサービス連携を促進する。○急速に増加する訪日外国人観光客、特にRWC2019大分開催終了後を見据えた受入態勢整備として、多言語メニュー作成支援、欧米向けメニュー開発、研修の充実など、県内における「食」を中心としたおもてなしの質の向上を図る。

<p>③ ガイド等ツーリズム人材の育成</p> <p>(担当：経営) (担当：地域)</p>	<p>○大分県ふるさとガイド連絡協議会の交流研修会を開催し、ガイドの資質向上を図るとともに、ガイド同士の情報やノウハウの交換を促進する。</p> <p>○通訳案内士や特区ガイド等の実践的なスキルアップ研修を実施し、外国人観光客に対する観光案内や関係者の招請等における業務に対応できる人材の育成を図る。</p>
<p>(3) 農山漁村ツーリズム育成事業</p>	
<p>① 人材育成研修</p> <p>(担当：地域)</p>	<p>○グリーンツーリズム研究会事務局や行政担当者等の商品開発・企画力やセールス力、危機管理等の研修を実施し、地域の受入態勢の資質向上を図る。</p>
<p>② 情報発信</p> <p>(担当：地域)</p>	<p>○外国人観光客の増加を見据え、グリーンツーリズムの魅力や農林漁家体験民宿の紹介など、民間事業者と連携して広く情報発信に取り組む。</p>
<p>③ 欧米向け環境整備</p> <p>(担当：地域)</p>	<p>○農家民泊等グリーンツーリズムに対する訪日外国人観光客の需要拡大が期待できるため、受入家庭の態勢整備や大手民泊サイト等と連携した適切な情報発信の充実を図る。</p>
<p>(4) 情報収集・発信事業</p>	
<p>① HP・情報発信誌等発行</p> <p>(担当：地域)</p>	<p>○「おんせん県おおいた観光情報公式サイト」(ツーリズムおおいたホームページ)における日本語サイトおよび多言語サイトの更新充実を図り、旬な情報、季節を先取りしたタイムリーかつ効果的な情報発信を行う。</p> <p>○観光情報誌「Gururitto〜ぐるり〜」を季刊発行し、県内及び九州内や中国地方などの高速道路サービスエリアや道の駅、公共交通機関のターミナルなどに配布する。</p> <p>○観光動向の情報を集約・整理するとともに、既存パンフレット類の集約や構成見直しにより、より効果的・効率的に観光誘客につながる媒体を制作し、情報発信効果の最大化を図る。</p> <p>○旅行会社やメディアに対して、商品の造成や販売に向けた観光素材、施設情報を提供するニュースレター(おんせん県 PRESS)を発行し、旅行商品造成や誘客促進を図る。</p>
<p>② WEB を活用した将来のリピーター確保対策</p> <p>(担当：地域)</p>	<p>○FacebookやTwitter、インスタグラムなどSNSの機動性を有効に活用した若者向け情報発信の強化に取り組む。</p> <p>○「テッパン! おおいた」におけるキュレーションシステムとの連動など、効果的・効率的な情報発信手段を構築する。</p>
<p>③ 魅力アップ情報発信支援</p> <p>(担当：誘致)</p>	<p>○広報広聴課及び各県外事務所と連携し、情報発信支援、取材支援を通じて、県外メディアによる大分県観光情報の露出と認知度の向上を図る。</p>

Ⅲ 国内観光客の誘致促進

熊本地震及び豪雨災害による国内観光客減少からの本格的な回復を図るため、近県の九州・中四国エリア、交通アクセスが豊富な関西・中部エリア、人口が集中する首都圏を中心とした東日本エリアに対し、各エリアに応じたプロモーションや旅行業界へのセールス展開、強みを生かした旅行会社や交通事業者等との連携を図ることにより、各ターゲットに対して効果的な誘客促進を図る。

(1) 九州・中四国エリア誘客対策事業

国内の宿泊客が伸び悩んでいる中で、高速道路網やJR・フェリーなどの交通アクセスの利便性の高い九州・中四国エリアからのさらなる誘客に取り組む。

<p>① 九州エリア (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○JR久大線の復旧にあわせて、JR九州や地域との連携による福岡圏域を中心とした誘客プロモーションの強化、商品造成の促進を図るとともに、JR九州やバス事業者等交通関係機関と連携したJR豊肥本線沿線における観光客の誘客対策を展開する。○旅行会社と連携したバス利用旅行商品の造成・販売を支援し、旅行需要の拡大を図る。○県内の各社旅連や県福岡事務所等と連携したセールス・キャラバン等を実施する。
<p>② 中四国エリア (担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○JR路線に加え、東九州道開通を契機に観光流入導線が豊富な山口県や広島県と連携して、相互協力による情報発信、誘客対策を実施し、西瀬戸エリアの連携を推進する。○四国圏域においては、豊富な航路を持つフェリー各社や旅行会社と連携した情報発信、誘客に取り組む。○NEXCO西日本と連携した「ドライブパス」を活用し、中四国エリアからの誘客促進を図る。

(2) 関西・中部エリア誘客対策事業

近年減少傾向にある関西・中部エリア発の観光客の入込を確保することは、今後の大分県観光を活性化する上で不可欠な取組であり、新たな観光資源を磨き、発信することにより誘客をさらに進める。

<p>(担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○関西・中部発の宿泊観光客が減少する中、送客力を持つキャリア(JR西日本)や旅行会社と連携して、送客力のある新幹線との接続を考慮した魅力ある旅行商品の造成、販売を促進する。○フェリー、航空機等の多様な交通アクセスを活かした商品造成を促進し、誘客拡大を図る。○民間事業者や県大阪事務所等と連携した共同セールスやキャラバン、イベントを通じたプロモーションを強化する。
----------------	---

(3) 東日本エリア誘客対策事業

熊本地震に続く豪雨災害により、東日本エリアからの観光客は伸び悩んでおり、地域によっては回復には至っていない。一方で、温泉などの豊かな自然資源、世界遺産等を持つ九州は、首都圏を中心に好奇心旺盛なアクティブシニアや働く女性、富裕層を呼び込める素材が豊富であることから、一層の誘客対策に取り組む。

(担当：誘致)	<ul style="list-style-type: none">○観光客の回復が遅れていることから、主要な観光流入導線である航空機を利用した旅行商品販売に積極的な旅行会社等との連携を図り、商品造成、販売、プロモーションを強化する。○航空事業者と連携した県内周遊型の大分専用旅行商品の造成や機内誌等を活用した情報発信を促進する。○民間事業者や県東京事務所等と連携した共同セールスやキャラバン、メディアを活用したパブリシティによる露出拡大など、効果的なプロモーションを実施する。
---------	---

(4) 商談会等による誘客促進

(担当：誘致)	<ul style="list-style-type: none">○県外事務所や市町村、関係団体等と連携したツーリズムEXPO ジャパン等の大型イベントへの出展、旅行業界向け商談会の開催などを通じて、大分県観光素材の訴求、販路拡大を図る。
---------	--

(5) 団体誘客対策事業

<p>① M I C E 誘致の推進</p> <p>(担当：誘致) (担当：MICE センター)</p>	<ul style="list-style-type: none">○M I C E 誘致の窓口として、大分県M I C E 誘致推進協議会の構成団体と連携し、団体や企業情報の収集やM I C E 開催データの充実を図る。○インバウンド誘致対策事業と連携して、海外からのインセンティブツアーの誘致を強化するとともに、受入時の伝統芸能等の提供も含めた誘致ツールの提供を通じて、将来のリピート客の創出を図る。
<p>② 教育旅行誘致の推進</p> <p>(担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○九州内の近県、広島・岡山を中心とした中国地方、大阪、京都、兵庫といった関西以西のエリアをターゲットに、教育旅行を取り扱うエージェン担当者の招請や学校関係者へのセールス等を通じ、誘致を推進する。○教育旅行誘致協議会と連携して、スポーツやサークル等の合宿の誘致活動に取り組む。○学校関係者や施設関係者等と連携して、新たな学習素材のコンテンツ開発を促進し、セールスツールの充実を図る。

(6) 空港利用促進事業

<p>① 航空事業者との連携促進</p> <p>(担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none">○大分空港就航の航空会社と連携し、各社の持つ特性を活かした効果的な情報発信や県内周遊型の旅行商品の造成・販売を促進する。○主要な発地となる首都圏での誘客プロモーションを展開する。
-------------------------------------	--

IV 広域観光連携の推進

(1) 東九州軸・九州横断軸連携事業

<p>① 東九州軸連携誘客 (担当：誘致)</p>	<p>○宮崎県やNEXCO西日本等と連携した誘客キャンペーンやメディアを活用したプロモーションを展開するとともに旅行商品の造成を促すなど、東九州自動車道開通以後、順調に推移している九州各県や中国四国地方からの観光誘客を促進する。</p>
<p>② 九州横断軸連携誘客 (担当：誘致)</p>	<p>○九州横断3県(大分・熊本・長崎)が連携して、テーマ設定(温泉・火山・ジオパーク、世界に誇る歴史文化、多彩なグルメ)と連動した観光素材情報の発信やセールス展開、商談会の開催により、かつて九州観光のゴールデンルートと称された九州横断軸観光の再興を図る。</p> <p>○世界遺産認定を待つ「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」とあわせて、県内のキリシタン関連観光素材を含む周遊ルートの商品造成、販売を促進する。</p>

(2) 広域観光推進組織連携事業

<p>(担当：誘致)</p>	<p>○九州観光推進機構と連携した旅行会社向け商談会や誘客プロモーションを実施するほか、その他広域連携組織との相互連携を図り、相互交流や情報発信を通じて、効率的な誘客を促進する。</p> <p>○九州全域など広域的なマーケティングデータの分析・蓄積手法等について、九州観光推進機構や各県観光連盟等と連携して、調査、研究を行う。</p>
----------------	---

V インバウンド誘致対策事業

訪日外国人観光客の増加が進む中、さらなる誘客が見込める東アジアや東南アジアを主要ターゲットに、大分県観光の強みである温泉や食、自然等の観光素材を活用して、国・地域の特性や旅行ニーズに応じたアプローチによる誘客を推進する。

また、RWC2019大分開催を控え、試合開催国への重点的プロモーションや宿泊施設の確保、大会終了後のリピート化を見据えた受入環境の整備など取組を強化する。

(1) アジアにおける国(地域)別対策

<p>① 韓国対策 (担当：誘致)</p>	<p>○観光素材ニーズの多様化に対応するため、誘客アドバイザーと連携したセールス活動、現地情報の収集を行うとともに、新たな素材の提供、情報発信を行い、継続的な誘客に取り組む。</p> <p>○現地セールスや旅行博等への参加ニーズに対応するため、県内民間事業者等による現地セールス活動等を支援する。</p>
---------------------------	--

<p>② 台湾対策 (担当：誘致)</p>	<p>○現地誘客アドバイザーや県内市町村と連携した県単独商談会や企業セミナーの開催、セールス展開や旅行博への出展等により、効果的なプロモーションを展開し、現地での知名度向上を図る。</p> <p>○急速な個人旅行化を見据え、影響力のあるパワーブロガーの招請や航空事業者と連携した個人客の取り込みを促進する。</p>
<p>③ 香港・中国対策 (担当：誘致)</p>	<p>○誘客アドバイザーと連携して、現地出版社やメディア等を通じた旬な情報の発信、ブロガーによるSNSでの情報拡散を図り、個人客の取り込みを促進する。</p> <p>○現地の有力旅行社や県海外親善大使等との連携を強化して、市場動向にあわせた効果的なセールス展開により、さらなる誘客に取り組む。</p>
<p>④ タイ対策 (担当：誘致)</p>	<p>○日系旅行会社と連携して、WEBやSNSを活用したタイ語による情報発信を強化する。</p> <p>○タイ旅行業協会が主催するアセアン最大の旅行博(TITF)への出展など、効果的なプロモーションを展開して現地での知名度向上を図る。</p> <p>○現地アドバイザーと連携し、現地旅行会社などの観光業界とのネットワークを深化させ、商品造成、誘客につなげる。</p>
<p>⑤ ベトナム対策 (担当：誘致)</p>	<p>○日系旅行会社と連携した旅行博出展、WEBやSNSを活用した効果的なプロモーションを実施する。</p> <p>○主力旅行会社とランドオペレーターを招請し、旅行商品の造成を促進する。</p>
<p>(2) ラグビーワールドカップに向けた欧米対策強化事業</p>	
<p>① 試合国等現地プロモーションの強化 (新) (担当：誘致)</p>	<p>○本県での試合開催国(欧州・豪州)を中心に、アジア圏でラグビー人気の高い国(香港、シンガポール)でのプロモーションを実施し、認知度向上を図る。</p> <p>○公式旅行代理店(OTA)と連携して、アジア圏からの誘客が期待できる香港・シンガポールにおいて、本県のセミナーを開催して、スポーツ関係メディア及び在住欧米豪人等をターゲットにした情報発信に取り組む。</p>
<p>② WEB・SNS等を活用した魅力発信(新) (担当：誘致)</p>	<p>○ラグビーワールドカップ2019大分開催を見据えて、大分県観光の知名度向上が不可欠であることから、影響力が大きいミシュラングリーンガイド(Web)やロンリープラネット、海外富裕層向けメディアによる情報発信や海外ライターによる記事制作、SNSターゲティング広告など、本県の魅力情報を積極的に発信する。</p> <p>○在県欧米ライター等と連携して、多言語ホームページ掲載情報の充実を図る。</p>

<p>③ 魅力的な商品造成 と誘客対策 (新) (担当：誘致) (担当：地域)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○開催期間が長いRWCでは、空き時間を利用した周遊観光が期待できることから、受入実績の少ない欧米豪からの観光客をターゲットとした魅力的なツアーや着地型旅行商品等の造成を促進する。 ○日本観光におけるゴールデンルート自治体等と連携して、本県への周遊モデルコースを設定し、訪日外国人観光客の周遊を促す。 ○海外船会社へのセールス展開や「クルーズせとうち」等他県と連携して、外国人富裕層が利用する高級小型クルーズ船の誘致を促進する。
<p>(3) 訪日教育旅行誘致推進事業</p>	
<p>(担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○誘客が期待できる台湾や中国、韓国等を中心に教育行政や学校関係者、旅行会社に対するセールスや説明会でのプロモーションに積極的に取り組む。 ○県教育庁や学校関係者、教育旅行誘致協議会等との連携を強化し、学校交流の円滑な受入調整や地元の受入態勢の強化を図る。 ○県内市町村等が実施する訪日教育旅行関係プロモーションや招請事業等における支援体制を構築する。
<p>(4) 広域連携・情報発信事業</p>	
<p>(担当：誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人観光客の旅程は、複数県を跨ぐものが一般的であり複数県による連携事業が効果的であることから、国の広域連携事業（V J 事業）を活用した各広域観光ルートの形成、九州各県と連携した招請事業、海外メディア招請を通じた情報発信等に取り組む。

VI ツーリズム推進態勢強化事業	
(1) 総会の開催	
(担当：経営)	○会員総意に基づき、ツーリズムおおいたの事業を推進するため、通常総会を年1回開催する。通常総会においては、事業報告や決算承認を諮るとともに、新年度の事業計画案、収支予算案を諮り、その承認を求める。また、本県のツーリズム振興に特に功績のあった団体・個人の功績を称え、表彰を行う。
(2) 理事会の開催	
(担当：経営)	○通常理事会は、年3回（6月、10月、3月）開催する。
(3) 運営会議及び事業企画委員会等の開催	
(担当：経営) (担当：地域)	○運営会議や事業企画委員会において、おんせん県おおいたのツーリズムの舵取り役として中核的役割を担えるよう、マーケティングに基づく戦略的な事業企画提案を行い、大分県観光を牽引する。
(4) 財政基盤の強化（収益事業）	
(一部新) (担当：経営) (担当：地域)	○公益事業を推進するための財源を確保する観点から、おんせん県おおいたのロゴマークを活用したグッズ販売の販路拡大、商品開発に積極的に取り組む。 ○着地型旅行商品の造成・販売の強化、販売におけるリスクマネージメントや業務の効率性向上、WEB販売システムの充実など、事業効果検証を行いながら環境整備に取り組む。 ○広告媒体の提供、セミナーや企画事業への参加の一部有償化など、新たな収入増加を図るための手法を検討し、財政基盤の強化を図る。
(5) 会員との連携強化	
(担当：経営)	○「ツーリズムおおいたNEWS」を発行し、各事業の実施予定や実施状況、観光動向など迅速かつきめ細かな情報提供を行う。 ○会員訪問等による会員ニーズの共有を強化するとともに、セミナーや商談会等への積極的な参加を誘引し、会員メリットの創出に努める。
(6) 組織の機能強化と連携推進	
(担当：経営) (担当：地域) (担当：誘致)	○観光立国の実現に向けて、国による投資も選択と集中型に移行する中、大分県観光の競争力を強化するため、組織の機能強化を継続的に推進する。 ○急速な訪日外国人観光客の増加、世界温泉地サミットやRWC2019大分開催、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭開催を見据え、関係機関との連携を強化する。 ○観光産業には多様な業態が関わっていることから、多様な業種との連携を強化し、効果的・効率的な事業執行を図る。